



株式会社dinos

IBM iの資産を活かし、Mendix連携で加速させるモダナイゼーション フロントエンド刷新と連携基盤の集約で、開発の標準化と属人化解消を実現

株式会社dinosは、家具や家庭用雑貨、食品など多彩な商品を、カタログ・テレビ・ECなどの複数チャネルで提供する総合通販事業を展開している。同社では、長年利用してきた基幹システムのIBM i(AS/400)を活かしながらモダナイゼーションを進める中で、商品管理システムのフロントエンドをローコード開発プラットフォームのMendixで刷新した。一方で、基幹システムとの連携を従来どおり個別に拡張していくと、今後の機能追加や改修時に連携構造が複雑化する懸念があった。そこで、データ連携基盤としてASTERIA Warpを導入し、Mendixで構築した業務アプリケーションと基幹システムの間に配置。連携処理を一元化・標準化し、開発工数の削減と運用・保守の属人化解消を実現している。さらに、はがき作成・印刷・発送業務のBPOにおいても、データ連携により委託先へのデータ送信を効率化するなど、基幹システムを置き換えることなく、さまざまな業務連携を支える基盤として活用が広がっている。

導入背景

- 商品管理システムのフロントエンドをMendixで刷新するにあたり、基幹システムのIBM i(AS/400)との連携を効率化しなければ、今後の機能追加や改修時に連携構造が複雑化する懸念があった
- 基幹システムと社内システムのデータ連携処理は、個別にJavaでスクラッチ開発・保守しており、属人化が課題だった
- 顧客へのはがき作成・印刷・発送業務を外注化するにあたり、委託先へのデータ連携が煩雑で、業務の切り出しが進まなかった

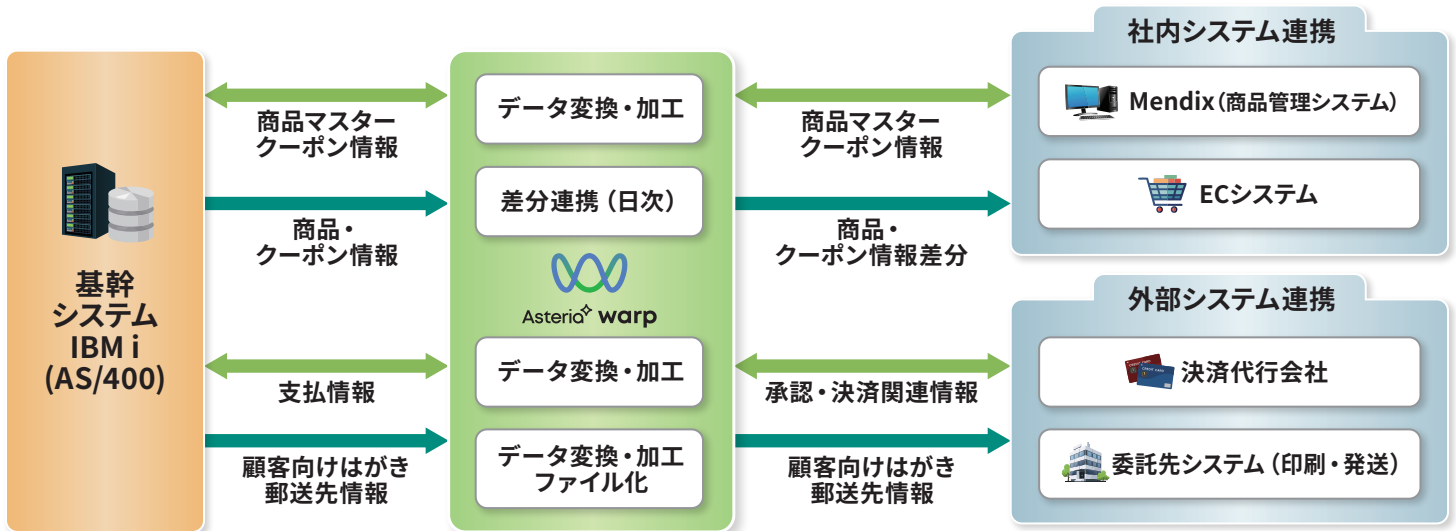
選定ポイント

- データ変換や処理フローを可視化できるため、経験が浅い担当者でも容易に開発・保守が可能で属人化を防げる
- PoCで複数製品を比較した結果、操作性やデバッグ機能の充実度が最も高く、実運用を見据えた使いやすさ
- 既存の基幹システムや周辺システムを改修することなく、接続先や用途に応じて連携処理を柔軟に設計・構築できる

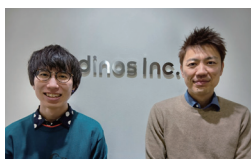
効果

- Mendixで開発したフロントエンドと基幹システムをASTERIA Warpでデータ連携し、連携処理を一元化・標準化。モダナイゼーションを最小限の工数で実現
- 連携の流れの可視化など、開発者本人以外でも保守・改修が可能となり、属人化の解消と技術的負債の抑制につながった
- 委託先システムへのデータ連携をスムーズに実現。システム連携のハードルが下がり、BPO促進などで、コア業務により注力可能に

システム概要



ユーザーの一言



開発・保守の実務ではフローデザイナーとともに、マップシミュレーターも便利です。担当者の習熟度が上がれば、開発・保守工数を削減できる手応えを得ています。また、データ連携の幅が広がった結果、従来は複数システムに多重で保持していたデータを統合できました。社内で要望が多く、開発者の増員を検討中です。近い将来、AWSやGoogle Cloud Storageとの連携も予定しており、データ連携といえばASTERIA Warp、のように今後もさまざまなニーズに対応していきたいと思っています。

株式会社dinos 情報システム部 システム開発ユニット 馬田 朔 様(左)/ 角田 健一 様(右)

User Profile

dinos

所在地：東京都中野区本町2丁目46番2号

会社概要：家具や家庭用雑貨、食品などの商品を、カタログ・テレビ・ECなどの複数チャネルで提供する総合通販事業を展開

URL：https://dinos-corp.co.jp/